



第 102 号  
 発行日 2025年 9月  
 紫明社福社協議会  
 紫明各種団体連合会  
 紫明各長 柴山泰朗

### 連合会の活動と 夏まつりの想い出

紫明学区各種団体連合会

会長 柴山泰朗

例年をしのぐ猛暑、酷暑が続きますが学区の皆様はお元気で過ごすごでしょうか。体調管理には十分留意されてお過ごしください。

今年には昭和100年、戦後80年の節目の年に当たります。学区の皆様には夫々の年に色々な出来事が有った事と思います。連合会の各団体も今までの事業を引き継ぎながら活動を工夫し、又新しい活動を行っていきます。

今年の夏まつりも各団体の工夫を凝らした模擬店や体験企画（起震車の震度体験、消火器の操作体験）、楽しい幼児の輪投げ、スピードガン測定、児童によるパフォーマンスなど子供達の歓声で盛り上がり、学区の老若男女の皆様1500余名が夏の

ひと時を楽しんでおられました。

今後とも安心安全な素晴らしい紫明作りにご支援、ご協力を賜りますようにお願い申し上げます。

今年度は次の会の会長が交代しましたのでお知らせいたします。

紫明交通安全推進会 会長

前磯垣昇 新中村哲也

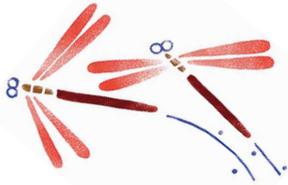
紫明小学校教育友会 会長

前村松裕之 新浅田翔太

紫明おやしおふくろの会 会長

前溝部秀昭 新西川順之

今後の予定としては9月15日の敬老会、10月の学区民大運動会、11月の防災訓練、12月の紫明ふれあい行事が各団体により予定されていますので積極的にご参加をお願い致します。



### 認知症サポーター養成講座 「それは特別なこと ではありません」

紫明社会福祉協議会

副会長 斉藤 卓

紫明社協福祉委員研修会は6月に兵藤講師を招いて「認知症サポーター養成講座」が開催され、紫明学区の福祉委員の皆さんが受講されました。

私たちは認知症と聞くとどこかで身構えてしまうのはどうしてでしょうか。認知症は自分のことであって自分のことではないような気がするのはどうしてでしょうか。家族や身近に認知症の人がいらつしやる場合もあれば、いらつしやるらない家庭も沢山あります。そして若者から高齢者、各世代によって認知症のとらえ方も様々に変わってきます。

この講座では私たちが認知症の人とどのように接していけば良いか、もし認知症らしき人と道や店舗などで接することができるのか、さらに地域で認知症の人をどのように支えていくことができるのか、こうした身の回りで起こりうる問題の事例をあげ、講師と参加者が一緒に考えることから進められました。



認知症の人と接する時には視線の高さを合わせることで、相手の話をしっかり聞き、そして自分自身はゆっくり話すことなど、日頃広報メディアを通じて知っているはずのことが事例とともに再認識させられました。

認知症と一言で言っても様々な個性を持つ方がいらつしやることも事例紹介から知ることができました。

余談ですが、高齢になりますとうしても認知症のことが気になります。認知症については「物忘れ」から始まり「短期記憶障害」「見当識障害」「周辺症状」「高齢」「遺伝」など様々な症状要因があげられています。でも大切なのは日々の生活をしっかりと過ごすことなどの指摘もあります。「しっかりと噛む食事」、そのための「口腔ケア」、「免疫力」を高めるために「歩く」など毎日の「適度な運動」を心がけること、そして「読む・話す・笑う」を通じて心に文化を育むこと。

この講座を通じて、地域のコミュニケーション力が広がっていくことが、認知症の人を支えるうえで大切だと思えました。



来賓のご挨拶



ミニ消防車が大活躍！  
親子で楽しむ夏まつり

紫明消防分団  
団員 西川 翠

暑さの厳しい中、家族連れや子どもたちの笑顔に包まれ、紫明夏まつりが開かれました。模擬店では焼きそばやかき氷を味わう姿や、ゲームに夢中になる子どもたちの姿が見られ、会場は夏ならではの楽しさでいっぱいになっていました。

私たち消防団も参加し、「ミニ消防車乗車体験」を行いました。ミニ



起震車-震度7

消防車は会場内の短い距離を走るものでしたが、笑顔で手を振る子どもたちと、それを優しく見守る保護者のまなざしがとても印象的で、会場全体が温かな空気に包まれていました。「家族で楽しい思い出になった」「消防に親しみを感じました」といった声も寄せられました。

今回の取り組みにあたり、ご協力いただいた紫明消防出張所ならびに雲ヶ畑分団の皆さまに心より感謝申し上げます。これからも地域に寄り添い、皆さんと一緒に安心・安全なまちづくりに努めてまいります。

## 紫明夏まつりを振り返って

紫明小学校育友会

会長 浅田翔太

令和7年度の紫明夏まつり、育友会はおやおふくろの会の皆様と合同で出店をいたしました。ブースの企画・運営の立場に立つことが初めてで不安の方が大きかったですが、過去に経験のある方々から昨年の実績等色々なことを教えてもらいながら、当日まで準備を進めてまいりました。

7月に入り連日大変厳しい暑さとなり、前日準備・当日の朝もこれまで同様夏の陽射しが照りつける中、熱中症等で準備の皆様が体調を崩されないかという不安もありましたが、各種団体の皆様と協力しながら、無事に準備が整いました。

いざ夏まつりが始まると、紫明小の児童をはじめ、保護者の方、近隣の方々等、紫明小にゆかりのある非常に多くの参加者に正直圧倒されました。機材の故障というハプニングがありました。本部役員さんが急遽ご自宅から家庭用の機器をご持参いただきました。出店ブースを訪れる子ども



もたちの顔はとてもニコニコしていて（思い通りの結果が出ず泣く子どもいらっしやいましたが…）とても楽しそうなお声がテント中に響いていました。そんな子どもたちに触れあえたことを大変嬉しく感じると共に、育友会役員の皆様、おやおふくろの会の皆様への感謝、さらには毎年夏まつりの運営に携わってくださる方々への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

素晴らしい経験をさせていただき、誠にありがとうございました。

## カレーのご飯が無い！

紫明学区自主防災会

副会長 中村哲也

今年の夏祭りにおいて私たち模擬店の課題は、できる限り無駄な経費をかけずに、来場した子どもたちや親御さんに、美味しいカレーを売り切れることなく提供することでした。そのために工夫したのは、現地でご飯を炊く方法です。必要に応じて炊飯量を調整できるので、売れ残りを



防ぎやすいと考えました。

実際、開始直後は来客も少なく、17時45分頃には「まだご飯はたっぷりある」「なら炊かなくても大丈夫」と安心していました。ところが少し席を外して戻ってみると、まさかの長蛇の列。あれほど残っていたはずのご飯が、すっかりなくなっていました。慌てて炊飯器のスイッチを入れるものの、炊き上がりまで40分。その間、列に並んだお客様とスタッフが炊飯器を見守る、何とも申し訳ない時間が続きました。暑さの汗に加えて焦りの汗が滝のように流れ、閉店までこの状況が続くという苦い経験になりました。

しかし、終わってみれば昨年を上回る販売数となり、根気強く待ってくださった方々から「美味しかった」と笑顔をいただけたことに心から救われました。

今年の経験を通じて、来年はたとえ動きがなくても17時45分にもう一度炊飯器を稼働させようと強く決意しました。ドタバタと素人感丸出しの模擬店でしたが、最後に自然と出てきた言葉は「来年はもっと頑張るぞ！」。仲間と共に試行錯誤しながら学んだことを次に生かし、さらに良い夏祭りしていきたいと思えます。ありがとうございました。

### 飲料は完売しました

紫明市政協力委員連絡協議会

副会長 阪田 裕彦

紫明夏まつりにおいて、スタッフ5名で模擬店の飲料販売を担当しました。販売を3名、氷と飲料補充をそれぞれ1名が担い、同じ委員会の方2名と大谷大学のボランティア1名にご協力いただき、800本の飲料を完売しました。

炎天下での販売は飲料の冷却が課題です。今年も学区の方々が牛乳パックで氷を作り、100本近くになりました。昨年の経験を活かし、スタッフが冷凍庫を荷車で運搬し、冷却の決め手となりました。

販売価格は、小学生も手に取りやすい100円に統一し、金券の受け渡しをスムーズにしました。飲料は地元の卸売業者に依頼し、小学校で受け取り、子どもたちが楽しめるよう12種類を用意しました。

現場では片手を上げ「はい」と呼びかけるスタイルに落ち着き、自然な誘導で子どもたちが購入。「スプライトはないの?」には「スコールはあるよ!」と返答。在庫が少なくなる、「今コーヒーと緑茶しかないねん、ごめんなー」と応じ、和やかに販売を続けました。

販売の合間には学区の方々とお話も。初対面と思いきや挨拶した方が別の委員会でも一緒している方とわかり、学区のつながりを改めて感じました。

最後に、最大の反省は三ツ矢サイダーの人気を読み違えたこと。予想以上の売れ行きで完売。来年は倍の数量を用意します。

氷を提供してくださった学区の皆様をはじめ、ご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。



大谷大学のボランティア

### 紫明学区を盛り上げましょう!

おやじおふくろの会

会長 西川 順之

本年度からおやじおふくろの会会長をさせて頂く事となりました。今年には育友会と合同で、わた菓子・ピニールヨーヨー釣り・タコせん・千本釣り・ミニバスケット・子供ステージ・花火を出店、企画させて頂きました。

他の団体のブースも大盛況で、子供達のたくさん笑顔、一生懸命な姿を見る事が出来て、酷暑の中での設営の疲れも吹き飛びました。一昨年から始めさせて頂いた花火も消防団他、各種団体の皆様のお陰で怪我・事故なく出来た事に感謝致します。今後も花火・子供ステージと共に恒例行事としてやっていけたらと思っています。

地域の皆様、紫明小保護者ボランティアの皆様、大谷大学生ボランティアの皆様等、多くの方々に支えられて開催出来ている紫明夏まつり、今後も盛り上げていきたいと思っております。開催時期は要検討かなとも思います。最後に、おやじおふくろの会、メンバー大募集中です!



清明高バンド



# 七夕のつどいに参加して

紫明社会福祉協議会

総務 大野 賜希子

7月7日、紫明小学校中庭で七夕のつどいを行いました。

平年よりも随分早い梅雨明けで、この日もよく晴れて暑かったのですが、時おり吹き抜ける風が心地よく感じられました。七夕飾りのために地域の企業様より寄贈いただいた笹は、ピロティの天井より高く大変立派でした。この笹に、小学1年生の皆さんと飾りつけを行いました。地域からの参加者は15名で、ご自宅で作った笹飾りを持参して下さった方もいらっしやいました。



1年生の皆さんは、短冊を書いてきて下さいました。将来の夢、今頑張っていること、上達したいことなど、いろいろな願いが書かれていました。子ども達は短冊を笹に結びつけた後は、地域の方と一緒に笹飾りをどんどんつけていきました。笹飾りは、6月開催のオアシスひまわりで、参加された皆さんが作ったものです。先生の指導の下、「天の川」や「ちようちん」「くすだま」の他、画用紙で「たこ」「金魚」などを作りました。

段ボール箱にいくつもあつた皆さんの笹飾りはみるみる減って、立派な七夕飾りが完成しました。華やかに飾り付けられた笹が風に揺れる様子を眺めながら、つどいの最後には、1年生の皆さんが七夕さまの歌を歌って下さいました。楽しいひと時を過ごすことができました。皆さまありがとうございます。

## 紫明一番地 歌声サロン

紫明社会福祉協議会

福祉委員 伊東 和代

7月15日の「紫明一番地」に行きました。その日のテーマは「唱歌・昭和歌謡をギター演奏で歌おう」で



した。私はカラオケは好きでないのですが、皆と歌うのは好きなのです。「エコーひまわり」の酒谷八重子さんと、そのご主人。準備段階のギターの音合わせなどしているときから、感じのいい人達だな、と思っていました。

20曲の楽譜、歌詞をファイルされたものが配られて、ご主人の司会で始まりました。童謡、学校唱歌、そして懐かしい歌と、1曲ごとに作詞者や作曲家のエピソードなど、面白くお話ししてくださって、とても楽しく聴いたのですが、今、思い出せません。20曲が、どんな歌だったか

な、そうだ、「サザエさん」を歌ったな。その程度の私でごめんなさい。「テネシーワルツ」。英語の歌詞を見ても私には歌えないのに、きれいな歌声が聞こえてくるから、皆はすごいなと聞き惚れていました。「瀬戸の花嫁」とか「憧れのハワイ航路」。男性の声がかきれいに聞こえてきます。男女混声だからいいですね。

ギター伴奏をし、20曲を指導して、美しい声で歌ってくださいました酒谷八重子さんと、ご主人の楽しいトークに感謝します。最後に「ふるさと」を皆で合唱して終わりました。こんな会だったら毎月あってもいいな、と思いました。



## 火の用心

毎月5日・20日は  
無火災推進日です

この1年で紫明小の保護者世代を中心に6名の新入団員を迎えました。消防団活動にご興味のある方、お気軽にお声かけ下さい。

紫明消防分団

分団長 山田 祐仁

第1回

生成AIについて



小山下花ノ木町

小川 英幸

今回執筆させていただく小川英幸です。普段は合同会社長目という人工知能(AI)やITを活用する会社を経営し、紫明消防分団にも所属しています。

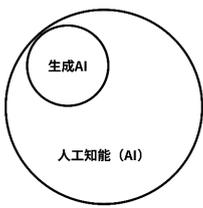
ここ最近、「生成AI」という言葉が耳にしませんか?これは文章、画像、動画などを、作成や識別が出来るものことです。ヒトの言葉で指示すると、かんたんに様々なことが出来るので「ドラえもん」のようといわれることもあります。

今回は、①生成AIについて、②基礎的な使い方、をご紹介します。

①生成AIについて

人工知能(AI)と生成AIの関係ですが、AIという大きな枠がある中の一部に、生成や識別ができる

AIの中に生成AIが含まれる



種類があり、それが生成AIと呼ばれます。AIは、データをたくさん集

こんにちは紫明のひろば伝言板を知ってますか?

思考プロセスを表示

はい、存じ上げております。「紫明のひろば伝言板」は、京都市北区の紫明学区で発行されている地域広報誌です。

「紫明のひろば伝言板」の概要

目的: 紫明学区内の出来事や行事予定、社会福祉協議会や各種団体の活動報告など、地域に密着した情報を住民に伝えることを目的としています。夏祭りや防災訓練といったイベントの告知から、地域の安全や福祉に関する情報まで、幅広く取り扱っています。

海外の人向けに英語に翻訳してください。

思考プロセスを表示

Of course, Here is an English translation for people from overseas.

Yes, I am familiar with it. "Shimei no Hiroba Dengonban" is a community newsletter published in the Shimei school district of Kita Ward, Kyoto City.

Overview of "Shimei no Hiroba Dengonban"

用時はうそをつかないように色々工夫されています。

②基礎的な使い方

生成AIはチャットアプリからが一番使いやすいです。チャットで「紫明のひろば伝言板を知ってますか?」と尋ねると、「紫明学区社会福祉協議会が中心となって発行しており(中略)1996年に「紫明伝言板」として創刊され」と解説します。これは生成AIが、ウェブ検索して

めて、その傾向から確率的に答えを出すものです。確率的に答えを出すので「たまに間違っ」のが難点です。「AIなんて無関係」と思われている方も、迷惑メールフィルター、スマホの顔認証、ネットショップのおすすめ品など、色々な場所でAIですでに使っています。

生成AIは「ヒトのことばで様々なことが指示できる」ようになり、一気に利用が広がっています。ChatGPTやGeminiのように、便利に使えるチャットアプリも提供されており、文章を生成するAI(LLM)を中心に画像、動画などが生成できます。生成AI活用の注意点としては、生成AIがうそをつくこと(ハルシネーション)があげられます。活

またアプリの機能も増えており、絵本を作ってくれる機能なんかもあります。「生成AIアプリは、スマホからでも使えるので、ChatGPTやGeminiを使ってみてください」と言いたいところですが、名前が似たよく分からないアプリがたくさんあるので、気をつけてください。

「生成AIアプリは、スマホからでも使えるので、ChatGPTやGeminiを使ってみてください」と言いたいところですが、名前が似たよく分からないアプリがたくさんあるので、気をつけてください。

この記事の参考資料、今後の連載で取り上げて欲しいこと、ご質問・ご感想などはQRコード経由のサイトからお願いします。この原稿を子供向けにした絵本の動画をサイトに置いていきます。次回もお楽しみに。



https://github.com/hideyuki-ogawa/shimei-hiroba/

編集後記

○先日、町内役員の一人として久しぶりに地藏盆実施のお手伝いをしました。朝8時から準備を始めましたが、昔と違って重い鉄骨のテントではなく、細い伸縮アルミ脚を伸ばしてタープを張るだけという簡単さに驚きました。一方で、飾りやお供えは、箱から取り出して去年の写真を見ながら進めて行ったものの、順序が違うために前後がうまく整わず、何度もやり直しました。何事にも継承と新技術の双方が必要であることをつくづく感じました。

○最新技術の一端に触れていたため、生成AIの説明を3回に分けて書いていただくことになりました。スマホを片手にお読みください。紫明のひろば伝言板も追いかけていきます(K)

